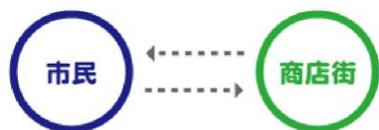


## 街なかで誰もが自由に楽しむことができる「空き地リビング」～「わいわい!!コンテナ2」

(佐賀県佐賀市)



人と人の『間』をつなぐ。  
ちょっとした時間の『間』を埋める。  
街なかの『間』を楽しむ。

- ◆ 街なかの居住者、活動者、有識者等で平成22年に組織した「佐賀市街なか再生会議」では、街なかの賑わいを取り戻すための取組みとして、コンテナを使った図書館と広場を設置することで、街なかにはたくさんの人々を呼び込む社会実験「わいわい!!コンテナ」を実施。イメージは車が入らず子どもが安全に遊べる“原っぱ”づくりにあつたといいます。
- ◆ 実施にあたっては、再生会議のメンバー（一級建築士事務所）が具体的な内容を提案し、大学や委員との役割分担で社会実験を実施。
- ◆ コンテナ図書館には、国内外から厳選して集めた雑誌や、絵本、マンガがあります。外には、松原川に面した心地よいテラスや、皆さんのアイデアで自由に使える芝生広場があります。小さな子ども達からお年寄りの方々まで、世代を超えて楽しめるようにしました。
- ◆ 社会実験は好評で場所を移して「わいわい!!コンテナ2」を実施。これまでの図書館のほか、チャレンジショップの出店やギャラリーとしての利用もできる「チャレンジコンテナ」を設置。
- ◆ 集客は年々増え、エリアの価値も高まり、コンテナによる賑わいばかりでなくエリア内の空き店舗の貸出、道路空間を活用したマルシェなど、取り組みが広がりつつあります。

## ◆ 「わいわい!!コンテナ2」事業概要

- 主催 佐賀市街なか再生会議
- 事務局 NPO法人まちづくり機構ユマニテさが
- 実施期間 平成24年6月9日～（年末年始・休館日を除く）
- 時間 午前10時～午後6時（2015年8月より変更）
- 設備等 [読書コンテナ] 世界の雑誌、絵本、漫画など（閲覧用） テーブル4席、ベンチ8席  
[交流コンテナ] マット敷き、絵本（閲覧用）  
[チャレンジコンテナ] 写真や絵の展示・物販用スペース  
[トイレコンテナ] 男女兼用トイレ、おむつ交換・授乳スペース設置  
[その他] 屋外席 | テーブル10席、イス30席  
ミネラルウォーター・お湯（ミルク用）の提供（セルフサービス）
- 施設管理 常駐平日2名、休日3名を配置  
施設全体管理、来場者へ施設の案内、周辺店舗の案内等を実施
- 効果の把握 アンケート、ヒアリング及び来場者数の測定等
- その他 駐輪場有り、駐車場は周辺民間駐車場（共通駐車券利用施設推奨）



# 【佐賀県佐賀市】空き地を使ったコンテナ広場を核としたまちなかでの起業連鎖によるコミュニティ再生

- ・まちづくり会社が借り受けた空き地に、民間の知恵を活かして、低コストのコンテナを活用したコミュニティスペースや図書館等を設置。住民と協働で管理し、多世代が交流するまちの賑わい拠点を形成。
- ・ここを拠点に周辺の空き店舗等が様々な店舗、シェアハウス等に生まれ変わる連鎖が発生。空き店舗と起業家のマッチングも始まり、まちの回遊性の向上、コミュニティ再生による地域価値の向上につながっている。

## 主なハード事業

### ○コンテナを活用した交流広場の設置

- ・空き地を住民の手で芝生広場に再生し、中古コンテナを活用した市民交流施設、図書室、チャレンジショップを設置。(H24)
- ・広場を中心に賑わいが生まれたことにより、周辺に店舗等が増加するなど、波及効果が現れつつある。



市民交流施設

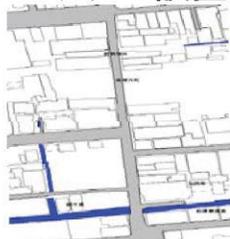


図書室



チャレンジショップ

## コンテナの設置による周辺への波及効果



赤:コンテナ広場  
緑:新規店舗出店(10店)  
オレンジ:公的施設

## 主なソフト事業

### ○コンテナ設置への市民参加

- ・広場づくりへの市民参加を促し、市民による空き地の利活用・維持管理を目指す。



### ○チャレンジショップとして活用

- ・出店やギャラリーとしての利用など、市民のアイデアと工夫で様々な使い方ができる。

### ○オープンシャッタープロジェクト

- ・民間主導で、複数の空き店舗を期間限定で一斉に開けるプロジェクト
- ・平成27年12月までに3回実施し、計35テナントが出店。うち2店舗の本格出店につながった。

## 《官民協働》

- 【民】佐賀市出身の民間事業者が提案し、商店、企業等が整備に協力
- 【官】社会実験として管理・運営業務をまちづくり会社(NPO法人ユマニテさが)に委託。

## 《市の総合戦略における関連KPI》

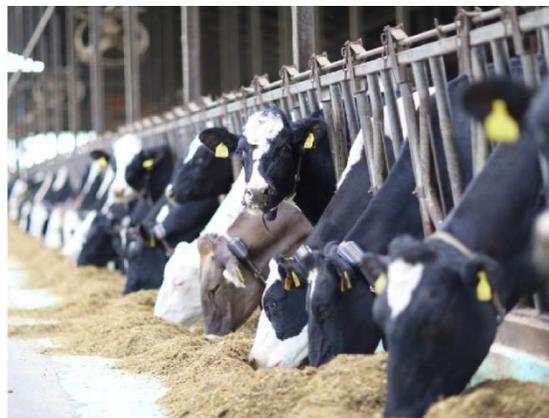
- ・佐賀市に住み続けたいと感じている市民の割合 57%(H25)⇒60%(H31)
- ・中心市街地の主要商店街の通行量 72,168人(H26)⇒125,000人(H31)

## 今後の取組

- ・更なる賑わい創出のため、街なかの遊休不動産の活用を促進するための資金制度を運用、水辺空間との調和による魅力向上

# 町全体を宿に見立てた“まち宿”～“ushiyado”

(北海道中標津町)



- ◆ 中標津町内の牧場経営オーナーと不動産賃貸業の2組が協同して中心街にある空き店舗をゲストハウス“ushiyado”に改装、2018年にオープン。
- ◆ ゲストハウスのテーマは“牛”。牛がのんびり暮らす大きな牛舎をモチーフにした空間をつくり、バターづくり体験や牧場散策など、牛に関する様々なアクティビティを施設内のラウンジや施設外で展開。雄大な牧場がいくつも広がる中標津で、牛の魅力を伝え、牛と新しい関係が生まれる宿を目指しています。
- ◆ また、牛以外にも地域と親しむアクティビティを展開～スノーシュー・モニターツアーや自転車レンタル等。
- ◆ 定期的にイベントが開かれ、多くの人でにぎわっている。



# 歩くのが楽しい康生通りを目指して～新たな道路空間の活用を考える「グッとくるわ社会実験」 (愛知県岡崎市)



◆ 専門店街が立ち並ぶ康生エリアのまちづくりに取り組む「まちづくり岡崎」では、そぞろ歩きが楽しい活気のある通りにしたいという想いから、2018年の11月に、歩道や軒下、駐車場などの空間を活用する社会実験「グッとくるわ社会実験」を実施しました。

- ◆ 社会実験では、以下の2項目を検証しました。
- 1) 「まち歩きが楽しい街」に向けた軒下利用や車道等道路空間活用
  - 2) 「魅力ある来やすいまち」になるよう、街や通りにとって駐車場のあり方を模索



まちなかの空きスペースを活用した飲食・物販エリア



歩道スペースを確保したうえで、普段は利用できない歩道に商品を陳列

◆ 実施にあたっては道路空間の利用における規制を一時的に緩和。人が歩くスペースは確保した上で、歩道の一部に商品を陳列したり、ベンチを設置するなどの取り組みを行い、魅力的なまちのあり方を探りました。

◆ 約300mある康生通りの歩道には、「まちの縁側」としてベンチなどの休憩スペースも点在。ここで食べたり飲んだり、ちょっと腰を下ろして休んだりしながら、いつもよりゆっくり滞在し、にぎやかな康生通りを眺めている人々の姿がありました。



休憩スペースでは、何気ないコミュニケーションが生まれています



歩道にバンドマーケットが営業中

# 民間の活力を利用した公園活用～分区園（貸農園）を設置・運営する南本宿第三公園

（神奈川県横浜市）



豊かな自然と竹林、そして楽しい菜園、心なごむ憩いのパーク。

## ◆散策マップ



## ◆竹林を活用したイベント

★七イベント開催

短冊飾り付け

記入期間：7月6日（土）15時まで

料金：無料

1：お願いごとを書こう！！  
短冊は農体験ゾーン倉庫前★

2：書いた短冊は  
竹林の笹に付けるかポストへ…

7月6日（土）15：00～ 竹林にて  
ポストに集まった短冊を一緒に付けまじょう！

問い合わせ先  
045-262-7410（平日8：30～17：00）

横浜市指定管理者 横浜植木株式会社

竹の配布

日時：7月6日（土）14時から15時

料金：無料

公園にある竹を希望の方に配布致します。  
公園にいるスタッフまでお声掛けください。

## ◆梅の収穫祭



◆ 地元の園芸・造園会社が指定管理者となり、豊かな自然と竹林、楽しい菜園、心なごむ憩いのパークとして運営。

◆ 園内に分区園（貸し菜園）を設置。有料施設として希望者に貸し出しています。

◆ 散策マップをつくり園内の花や竹林、これらを利用した各種のイベントを実施しています。

### ○主なイベント

- ・タケノコ掘り
- ・梅の収穫祭
- ・七イベント
- ・ニンジン収穫体験
- ・ハウレンソウの収穫体験
- ・収穫物の無料配布

◆ 園内収穫物（園内の果樹や筍、落ち葉など）については、市がその所有権を放棄することで、指定管理者が自主事業に活用することを可としています。

# 公園を利用する市民と行政が一緒に行う公園の整備・管理・運用を目指して ～西公園パークマネジメント社会実験事業（宮城県仙台市）

- ◆ 仙台市の西公園（面積10.8ha,総合公園）は、明治8年に開園した仙台で最も歴史ある公園であり、花見の名所等として市民の皆さまに親しまれている公園です。
- ◆ 春にはお花見、秋にはイベントに訪れる人々で賑わいます。公園を利用する市民と行政が一緒に行う公園の整備・管理・運用を目指して、西公園をモデルに様々な人が協働で社会実験に取り組みました。



- ◆ 本事業は平成29年度の市民協働事業提案制度にて仙台市建設局公園課が設定したテーマ「まちの魅力を高める公園の利活用」に対し、都市デザインワークス（NPO法人）の提案する「西公園パークマネジメント社会実験事業」が採択となり事業がスタートしました。
- ◆ 樹や筍、落ち葉など）については、市がその所有権を放棄することで、指定管理者が自主事業に活用することを可としています。
- ◆ 平成29年に実施した一ヶ月の社会実験「西公園 4 W E E K S」では、西公園らしさを活かした楽しみ方を見出す複数の団体、公園の個性・魅力を活かす市民＝「公園を楽しむ人」の視点を大事にし、より広く市民と一緒に公園づくりをしていくため、公園を楽しむプログラムを実施する「パークキャスト」を公募しました。その結果、総勢28組の市民がパークキャストとして西公園の新たな力を引き出しました。
- ◆ 「西公園 4 W E E K S」ではパークキャストの活動拠点となるパークハウスを設置し、そこにパークマネージャーが常駐して、公園に関する相談受付や安全な状態を維持する見回り、イス・テーブル・ハンモックやレクリエーションアイテムの貸出などの役割を担いました。夕日に照らされるヨガ、一緒に朝ごはんを食べる会、アウトドアシネマなど、一日平均2～3の多種多様なプログラムをパークキャストが実施しました。

